

氷見市庁舎 ~旧高校校舎から市庁舎へのコンバージョン~

氷見市では、市庁舎（旧）の老朽化や耐震性能不足、庁舎の分散配置等さまざまな問題を解決するため、閉校となった旧富山県立有磯高等学校の体育館と校舎棟の一部をコンバージョンし、新しい市庁舎として整備しました。

AFTER←BEFORE



Photo: スタジオムラ

◎メリットを生かす

体育館の特徴である「柱・壁の無い大空間」は今回の計画を進める要因ともなった最大の利点です。この大空間を生かし、1階は市民と密接に関係する部署を全て配置することで、解り易く移動距離の短い「やさしい窓口」とし、これまで問題であった窓口の分散配置を解消することができました。

◎デメリットを庁舎の顔に

2階アリーナは天井高さが10mを超え、空調効率が極端に悪くなることが想定されました。天井を低く抑える必要があるが採光窓は上部にしか無く、快適な執務空間を造る上での「致命的な欠陥」でしたが、「船底型天井」の設置により、気積を40%程度抑えて空調効率を向上させ、上部窓からの十分な採光も確保することができました。天井全面に張った軽量の白いテント膜は、日中は自然光、夜間はアップライトで照らされることで、室全体の明るさを確保するとともに、印象的でダイナミックな「新市庁舎の顔」となる空間を造りだしました。



BEFORE→AFTER



©YAMASHITA SEKKEI + ASAZI KENCHIKU SEKKEI

所在地：富山県氷見市鞍川 1060
 敷地面積：20,746.91 m²
 建築面積：4,374.37 m²
 延床面積：7,890.31 m²
 構造規模：SRC造2階建て(旧体育館)×2棟
 RC造3階建て(旧教室棟)
 S造2階建て(連結増築部)×2棟他
 設計監理：山下設計・浅地設計共同企業体
 マイルドパートナー：株式会社イトーキ
 施工：名工建設株式会社 北陸支店
 氷見土建工業株式会社(外構)

